

令和7年度 廃棄物管理責任者講習資料



ごみ減量につながる取組事例の紹介



大阪市環境局事業部 一般廃棄物指導課



本市職員は、毎年、概ね2,300件程度の特定建築物への立入検査を行っています。

いい取り組みを
されているな

この取組みなら、どの業種でも
採用しやすそうだな

廃棄物の排出削減に関する取り組みと、
どの業種の方にも取り組んでいただけそうな
リサイクル事例について紹介します。

事例 1 SBS東芝ロジスティクス株式会社
新住之江倉庫

事例 2 アスクル株式会社



【事例 1】 物流倉庫での取り組み

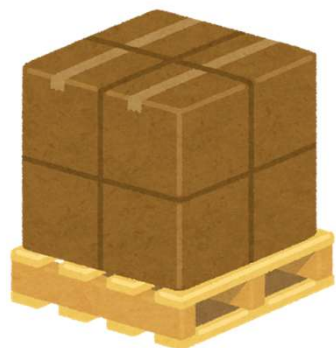
広大な物流倉庫では、たくさんの従業員が働き、日々大量の商品が納品され、出荷されます。



その結果、毎日、大量の廃棄物が発生します。

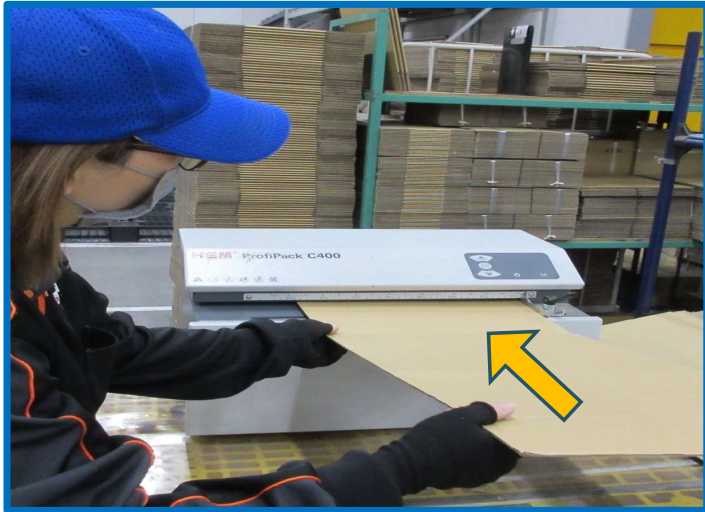
ここでは、流通用には使用できなくなった段ボールを緩衝材として再利用することに成功したほか、倉庫内の廃棄物の分別にも積極的に取り組む

「SBS東芝ロジスティクス株式会社 新住之江倉庫」を紹介します。

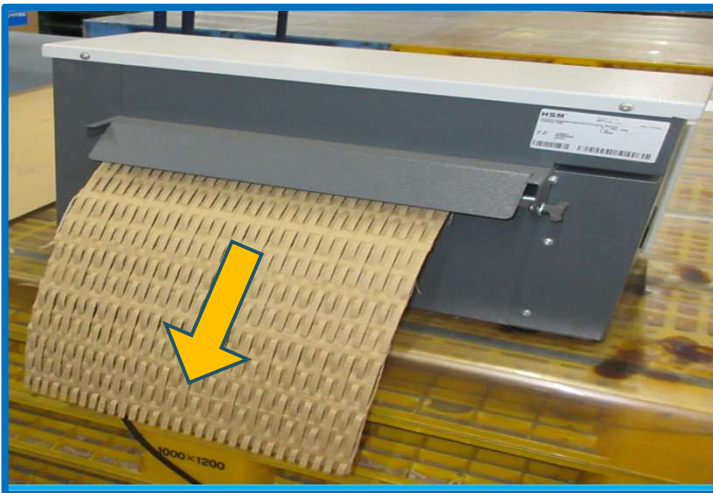


【取組①】 廃棄物を資材にー資材調達コストの削減に成功ー

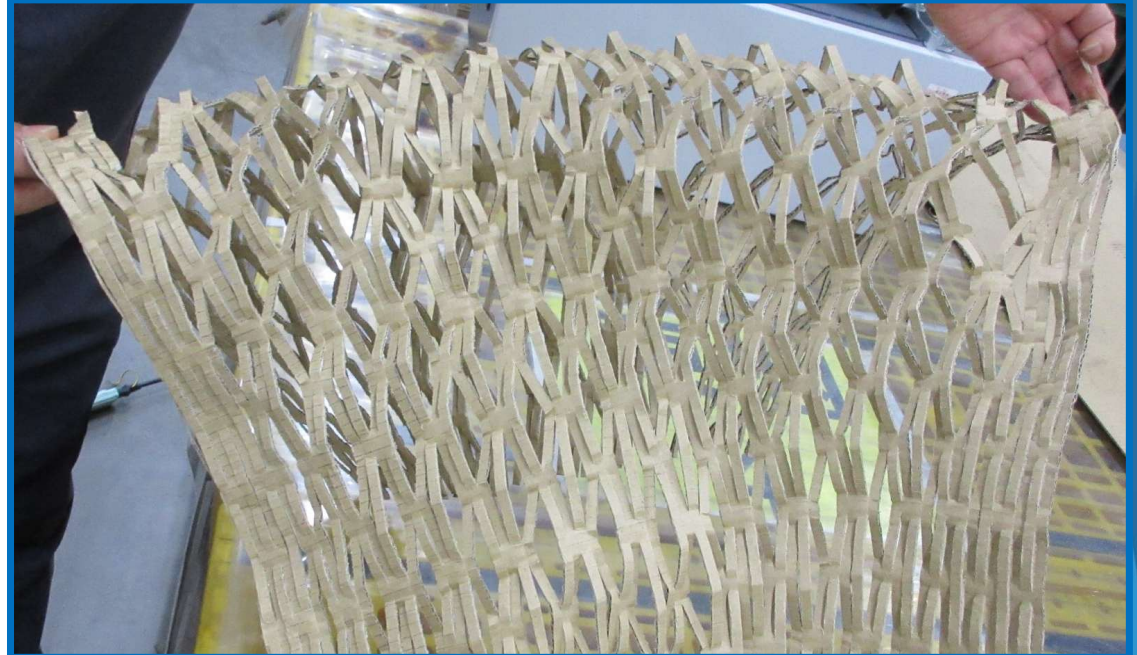
①



②



③



☆ 活用例



【取組②】 分別ができる環境づくり（倉庫スペース）

統一された分別ボックスの設置



広い倉庫の至る所に、同一基準、同一表示の分別ボックスが設置されています。

【取組③】 分別ができる環境づくり（事務所スペース）

一目でわかる表示

従業員の皆さんが食事等行う共用部には、廃プラスチックを入れるごみ箱の上に、大きくわかりやすく注意喚起がされています。

具体的にお弁当やカップ麺の容器、パンの袋などの写真を示すことで、従業員の皆さんが、分別に迷わないよう工夫されています。



【取組の効果】 担当者様のお声



機械を導入したことによる効果

①環境負荷の軽減

使用済み段ボールの再利用は、強度の問題などで、限界がありました。
緩衝材として再利用された段ボールは、配送先で再生可能な紙類として収集され、リサイクルされれば、大切な資源が循環されていきます。

②資源調達コストの削減

以前は緩衝材の購入のために、年間数十万円の経費が生じていました。
機械購入時の初期投資に費用は掛かりましたが、これまでかかっていた緩衝材の購入経費分は、数年で回収できるだけ効果があります。

【最後に】

「ムダをなくす。もったいない。まだ使える。」といった意識や感覚が、スタッフ一人ひとりに浸透していくと、エコ活動はうまくいきます。
廃棄物管理責任者として、その思いを活かすためのバックアップ（環境づくり）を続けていきたいと考えています。

【事例 2】クリアホルダーの回収、再生の取組み

職種の違いがあれど、日々の業務の中で、どこの職場でも「クリアホルダー（※）」を使用されているのではないのでしょうか。

- ・ 自社で購入したもの
- ・ 他社から受け取ったもの
- ・ 景品（アメニティ）として受け取ったもの など

しばらく使用し、傷んだら、廃棄していませんか？



待って！

アスクル株式会社の取組みを
紹介します。

※商品によっては、クリアーフォルダーもしくは、クリアファイルなどの名称で販売されていることがあります。

誰でも参加できる仕組み 参加者の目線

アスクル株式会社では、事業者から提供された使用済みクリアホルダーの再資源化・再製品化を行っています。



すぐにスタート♪

Point 1

製品のメーカーを問わず、回収

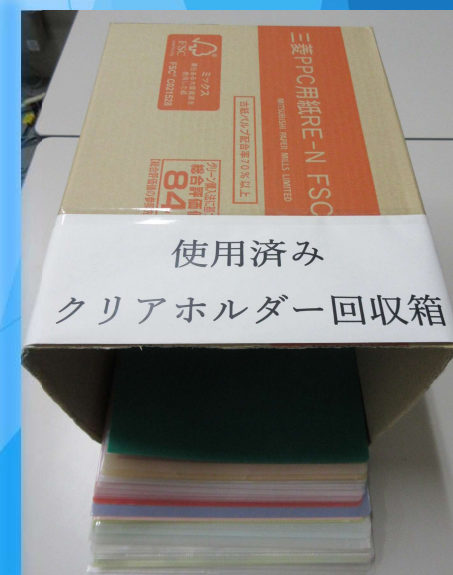
Point 2

色付き・柄入りも回収、
分別の必要なし

Point 3

費用負担は、原則、送料のみ
(もしくは、持ち込み可)

空き箱
一つ
あれば



アスкул 使用済みクリアホルダー回収

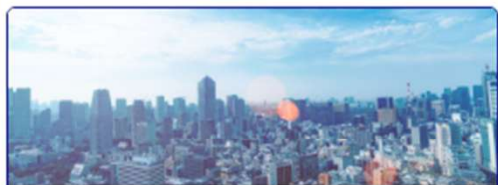


で、検索

参加者情報を登録して、あとは送るだけ。
この始めやすさが、参加者の拡大につながっています。

【回収された使用済みクリアホルダーは？】

再商品化までの経過や、回収実績などをアスкул株式会社
資源循環プラットフォームのホームページで確認できます。
クリアホルダーを提供したら、翌月に集計・分別結果の報告が
メールで届きます。



提供事業者一覧



分別の様子はこちら

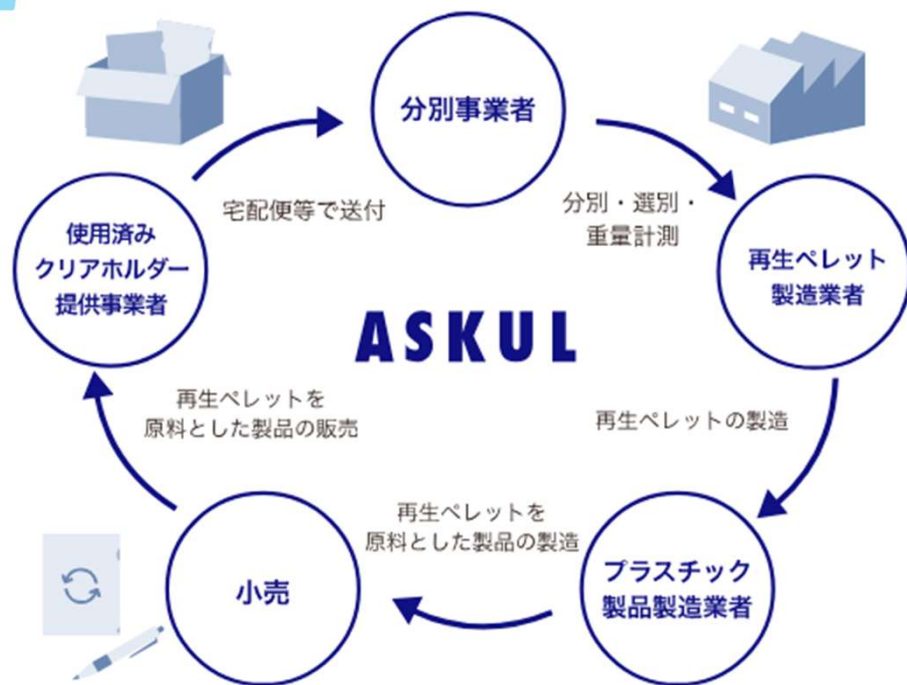


再資源化の様子はこちら



再商品化について

誰でも参加できる仕組み **アスクル（株）の役割**



アスクル（株）が、リサイクル円の核（プラットフォーム）となり、再資源化・再製品化する資源循環を実現しています。

1箱110円（税込）で買い取られたクリアホルダーは、同代金の支払いにかえて、代金同額（不課税）をアスクルが半期に1度まとめて寄付をし、その実績がHP上で報告されます。

寄付先：THE OCEAN CLEANUP

2013年に創設されたオランダに本部をおく非営利法人。

海洋のプラスチックごみの回収およびプラスチックごみの海洋への流出を河川で遮断する技術を開発することを目的とする団体

誰でも参加できる仕組み

参加者様のお声

毎年、書類を廃棄するときに、クリアホルダーもたくさん出てきます。もちろん繰り返し使用しますが、使っているうちに劣化してきます。

いつも、もったいないなと思いながら捨てていましたが、アスクル株式会社の活動を知り、飛びつきました。

廃棄物として処理するのではなく、原材料として加工され、新しい商品に生まれ変わっていく活動に参加できていると思うと、嬉しくなりますし、1枚も廃棄することなく送ろうと思っています。

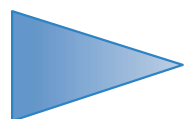


(大阪府立労働センター内)

大阪労働者福祉協議会

最後に大阪市環境局より

- ・ちょっとしたアイデア
- ・もったいないという意識



廃棄物の減量 **成功!!**

今回紹介した事例を取り入れたり、テナントの皆さんに紹介いただくとともに、それぞれの事業所で実施されているごみの減量に繋がる取り組みがあれば、立入検査に伺った時に教えてください。

